

言葉は音楽の主人

Cludio Monteverdi

これはバロック時代を代表する作曲家のうちの1人、クラウディオ・モンテヴェルディの言葉です。

言葉に命を吹き込み、それを生きた表現とするための音楽とはいったいどのようなものなのか。この時代の作曲家たちは、古代ギリシア時代を起源とする修辞学という学問を音楽にも取り入れ、そのことを体現しようとしていました。

言葉を大切に、音楽がそれをより説得力のあるものとするべく作曲されてきた古楽と、同じく詩から感じとられる風景や情感、空気や匂いまでもを音へと昇華させその世界観を表現するべく作曲を試みている岩田耕作氏の作品の演奏を、「言葉から音楽がつくられる」という同じ視点でつなぎ、今回皆様にお届けしたいと思います。

時代も場所も遠く離れたこのふたつの音楽がどの様に結ばれ折り重なっていくのか、どうぞ心ゆくまでご堪能ください。



市橋 なぎさ (ソプラノ)

国立音楽大学声楽科卒業。東京ミュージック&メディアアーツ尚美ディプロマコース声楽科修了。オペラ「カルメン」ミカエラ、フラスキータ「魔笛」童子など数々のオペラに出演。神奈川県文化大使としてイギリスへ演奏派遣され、日本の絵本を題材とした「歌と楽器の演奏」で日本の文化を紹介。自身が主宰するアンサンブルグループ「La canor」において子どものための音楽会やサロンコンサートを企画するほか、2012年には子どものための音楽劇「おばあさんになった王女」を企画。音楽劇の原作台本を自ら手掛け、再演を重ねる。また、JA 共済福島主催「ママフェス」のオープニングセレモニー演奏を務め、福島県各地にて公演を行う。クラシックで♪福島幸せ時間「Fukura」メンバー。日本音声言語医学会正会員。



岩田 耕作

6歳のときに失明。

7歳よりギターを、高校入試のために14歳よりピアノを始めるが、そのころから古楽に興味を持ち、上京した15歳よりリュートを、17歳よりチェンバロを始める。筑波大学付属盲学校高等部音楽科を卒業後ヨーロッパに留学。ブリュッセル王立音楽院にてチェンバロと室内楽のプルミエ・プリ、ストラスブール音楽院にてチェンバロと作曲法の金賞を受賞。チェンバロを小林道夫、橋本ひろ、アリン・シルヴェライヒ、チェンバロとオルガンをロベール・コーネン、バス・コンティニューオとオルガンをマルタン・ジェステール、作曲法をオディール・シャルベ、マルク・アンドレの各氏に師事。楽器の演奏と共に、専門分野である音楽理論や作曲法の知識を生かした演奏解釈による、器楽、声楽、各種アンサンブル、合唱などの指導、コンサートの企画を行っている。



岩田 明子 (ソプラノ)

名古屋芸術大学音楽学部声楽科卒業。

フランスに留学。

ミュルース音楽院にて声楽の金賞、メッツ音楽院にてバロック声楽の金賞を受賞。

声楽をフランス・ジェゼル、バロック声楽をミシェル・ルドワ、モニク・ザネッティ、ルネサンス声楽をブルノー・ポテールの各氏に師事。

第4回福岡古楽音楽祭オープニングコンサートに出演。



伊藤 美恵 (ハープ)

神戸市出身。2011年、奨学金を得て英国ギルドホール音楽院大学院古楽科に入学。

古楽ハープをアンドリュー・ローレンス=キング氏に師事。これまで通奏低音奏者として、キングス・カレッジ聖歌隊、エンシェント室内管弦楽団、BBCラジオ、ロンドン・ヘンデルフェスティバル、エネスク国際音楽祭、北とぴあ国際音楽祭、東京春音楽祭、HFJのオード「アレクサンダーの饗宴」(ハープ協奏曲)、コントラポントのモンテヴェルディ「夕べの祈り」、声楽アンサンブル「ラ・フォンテヴェルディ」の公演に参加している。エマ・カークビー、イアン・ポストリッジ、イェスティン・デーヴィスなど海外の著名な演奏家との共演も多い。



山手 111 番館 (横浜山手西洋館)

神奈川県横浜市中区山手町 111

(港の見える丘公園内)

石川町駅元町口から徒歩 20 分

元町・中華街駅 5 番出口 (元町口) から徒歩 8 分

